

1	開催日時	令和6年8月28日(水) 午後3時00分から午後5時00分まで
2	場所	東海村役場 原子力視察研修室
3	出席者	橋爪委員，石川委員，鹿志村委員，小野委員，伊藤委員，榊原委員，赤津委員，丹委員，浜中委員
4	欠席者	葛西委員
5	公開又は非公開の別	公開
6	非公開の理由	なし
7	議題	新たな総合計画の策定について（協議） 村長との意見交換（フリーストーク）
8	配布資料	別添1～別添6のとおり
9	発言内容	別紙のとおり
10	結果	継続して審議していく

第2回東海村総合計画審議会

日 時：令和6年8月28日（水）15時00分～17時00分

会 場：東海村役場 原子力視察研修室

出席委員：常磐大学 総合政策学部法律行政学科 助教（憲法） 橋爪 英輔 委員

東海村立東海南中学校 教務主任 石川 友康 委員

社会福祉法人オックス・ウェルフェア 理事長 鹿志村 茂 委員

株式会社ヒューマンサポートテクノロジー 代表取締役 小野 浩二 委員

株式会社C o - L a b 共同代表 伊藤 史紀 委員

明治学院大学 社会学部社会福祉学科准教授 榊原 美樹 委員

公募委員（茨城キリスト教大学3年） 赤津 颯斗 委員

中丸小学校PTA会長・東海南中学校PTA副会長 丹 大輔 委員

A. I. 設計 浜中 本子 委員

欠席委員：一般社団法人 ラフェット・デラール理事 葛西 美紀 委員

議事内容：開 会

議題（1）新たな総合計画の策定について（協議）

村長との意見交換（フリートーク）

閉会

第2回東海村総合計画審議会 議事録

令和6年8月28日

【事務局】 皆さん、こんにちは。定刻より前ですが、皆様おそろいとなりましたので、ただいまから第2回東海村総合計画審議会を開会させていただきます。

私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、政策推進課長の〇〇でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本日の資料の確認をさせていただきたいと思います。まず、資料ナンバー1でございますが、表紙が次第になってございまして、中身が前回の振り返りを行うための資料となっているものでございます。

次に、資料ナンバー2-1と資料ナンバー2-2であります。本日の議題となっておりますビジョンに関する資料ということになってございます。

次に、資料ナンバー3であります。こちらは会議中に御発言いただけなかった事項につきまして、後で御記載いただくための御意見、御質問票となっております。

続いて、参考資料といたしまして、参考資料ナンバー1であります。こちら、ビジョン案の取組例となっております。

最後に、参考資料ナンバー2であります。こちらは地域幸福度（Well-being）指標の概要となっております。

本日、お手元にお配りさせていただいた資料につきましては、過日、委員の皆様へ電子データにてメール送信させていただいたものと同様の内容となっておりますので、よろしくお願いいたします。

資料は以上となりますが、何か過不足等はございませんでしょうか。皆さん、おそろいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、開会に当たりまして、審議会委員長から一言、御挨拶をいただければと思いますので、審議会委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

【審議会委員長】 皆さん、改めましてこんにちは。

前回から1か月ぐらいたちまして、前回、ちょっといろんな御意見いただいて、かつ、ちょっと進め方についての御提案等もあったかと思うんですが、そこは事務局の皆さんもいろいろ検討してくれて、ちょっと工夫もして今回に臨めているのかなというところです。今日

も本当に率直で活発に意見交換できたと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 ありがとうございました。

続きまして、本日の出席者であります。総合計画審議会委員10名中、葛西委員を除く9名に御出席いただいているところでございます。したがいまして、東海村総合計画審議会の組織及び運営に関する規則第5条第2項に定める定員数の過半数以上の出席という要件を満たしてございますので、本審議会が成立しておりますことを御報告させていただきます。

続きまして、本日出席しております役場執行部の御紹介をさせていただきます。

初めに、山田村長でございます。

【山田村長】 よろしくお願いします。

【事務局】 次に、総合戦略部の〇〇でございます。

【事務局】 どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 次に、政策推進課課長補佐の〇〇でございます。

【事務局】 〇〇です。よろしくお願いします。

【事務局】 同じく、係長の〇〇でございます。

【事務局】 〇〇です。よろしくお願いします。

【事務局】 同じく、係長の〇〇でございます。

【事務局】 よろしくお願いいたします。

【事務局】 最後に、改めまして私、政策推進課長の〇〇でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

また、前回に引き続きまして、総合計画の策定支援を行っていただいております、策定支援事業者の〇〇様にも御出席いただいておりますが、本日はオンラインでの出席ということになってございますので、よろしくお願いいたしますと思います。

【策定支援事業者（〇〇）】 よろしくお願いします。

【事務局】 なお、後方なんですけれども、前回同様に職員研修の一環といたしまして、審議会委員長から通年で御指導を受けております村の職員1名も同席させていただいておりますので、御了承いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、皆様、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、早速ではございますが、新たな総合計画についてということで移らせていただきたいと思います。山田村長から、新たな総合計画に関する想い等につきまして御説明をしていただきたいと思います。村長、よろしくお願いいたします。

【山田村長】 改めまして、こんにちは。第2回の総計審ということで、本当にありがとうございます。

今、想いと言いましたけど、私、ノーペーパーで、ちょっと皆さん方にお話をするをお許し願いたいと思います。当初の予定は、事務方が内容をちょっと説明して、この後に私とフリートークをやるということで、それで行こうと思ったんですけど、第1回目のミッション・バリューのところでもいろんな御意見が出てというところで、その整理もあったんですけど、計画の本体はビジョンのところなんで、ビジョンのところでは、事前にお送りした資料を見ていただいたと思いますけど、そもそも何でこれ、この4本柱なんだって話にも、多分、なると思うんですね、当然ながら。そこの導入部分が分からないと、いきなり事務的に説明しても、そこがもやもやした状況で私と意見交換してもなかなか先に進まないだろうなと思って、最初、私のほうでお話ししなくちゃならないなと思ったものですから、急遽、こういうふうに変えました。

第1回目も、本当は最後のほうで私とお話をする時間を設けたはずなんですけど、議論がいろいろ沸騰して私と話す時間がなくなったということで、いろいろやっぱり進め方は難しいなというふうに思います。

そもそも今までの総合計画のつくり方というのが、住民ワークショップやったり、いろんなことをやって、相当時間をかけて丁寧にやってきました。丁寧にやってきましたけど、でも、結果的には計画は総花になっています。やっぱり住民の方々を入れると、いろいろ御意見出るんですけど、もう理想論になってしまいがちですね。これは最初のときも言いましたけど、そのつくり方をやっていると、いつまでたっても、多分、変わらないと私は思ったんで、今回、ドラスティックにつくり方を変えています。だから、つくり方を変えた以上、今度は役場が主体になって、今、やっています。

私、本来、まずいと思いながら、今の世の中、住民との協働というのを盛んに言っておきながら、この計画づくりの一番大事なところを役場主導でやっていいのかなというのは自分の中でもずっと考えるところはあるんですけど、でも、思い切って、新しいものを出していくためにはそこはやらざるを得ないかなと。その示したのに対して皆さんから率直に、そうじゃないんじゃないとか、あと、こういうところがやっぱり抜けているんじゃないかというのは率直に出してもらおうほうがいいかなというふうに思っていて、今回、こういう進め方になっています。

この後、ビジョンの詳しいところ、説明を担当のからすると思いますけど、そもそも何で

この4本柱かというのは、皆さん、気になっていると思うんですけど、私が今、今の時代、一番危惧しているのは人口減少問題です。東海村といえども、10年、20年先、計画は一応5年なんですけど、5年先、長くても10年先を見たときに、間違いなく東海村も人口は減っていくと思っています。

でも、その減り方を少しでも抑えるためには、何らかの手だてをしないといけないと、そこは維持できないだろうという思いがあるので、今は、人口減少対策イコール子育て支援になっているんですけど、子育て支援だけでは駄目だと思っています。その次、その一つ前の若い世代、もう20代前半、もっと言えば10代、高校生とか、その辺りに何かアプローチしていかないと、多分、もうもたないと思っています。今回は、子育て支援だけでなく、子供、若者にきちんとアプローチというか、支援しているというのがはっきり見せられるような、国もこども家庭庁をつくって子供、どまんなかって言っていますけど、まだ何となく保護者、親世代のところの支援が多くなっていて、直接的に子供に対してメッセージが伝わってないような気がして、市町村のほうでそこは密接に見ているのでやりやすいのかなと思っています。

ですから、お示しした資料の中でも、子供のライフステージごとに支援していくようなことを書いていますけど、別にあれは縦割りにしているんじゃないくて、あえてそこに行政としてきちんとそこに焦点を当てて施策を打っていくという意思表示なんです。

私の中では、従来の子育て支援よりもっと前の若者支援をきちっとやらないと駄目だというのがまず第一にあるんで、ただ、人口減少というネガティブなワードだと計画としてはちょっとつまらないので、そこをもっと夢のあるワードにちょっと変えていただきたいというのは、皆さんの御意見もあったんですけど、まず、そこが第一と。

もう一つは、やっぱり村の発展って、やっぱり基盤整備しないと発展しないと思うんです。これは〇〇審議会委員さんもお分かりだと思うんですけど、やっぱりハード的なものをしていかないと、ソフトだけでは難しいかなというところがあって、それはその次の時代をつくっていくための基盤整備でもあるし、あとは、住民の暮らしを守っていく基盤整備もあるんでしょけど、やっぱりそのハード整備は必要だということがあって、それもやりたいと。

あと、デジタル化です。デジタル化は本当にこれ、ドラスティックにいろんな住民の方の手段を変えていく話なんで、フロントヤードとして、住民の皆様は役場に来なくてもいい、書類を書かなくてもいい、そういう本当に自宅で手続きができるようにしたいんですけど、それをやるためにはバックオフィスの役場の中をどんどん変えていかないとならないんで、こ

れは働き方も含めて変えていって、そうやって今までの仕事のやり方を変えて、より住民の皆さんには、多分、もっと直接的な支援を役場職員はしていくべきだろうと思っています。

もう制度的に固まっているものの手続みたいなものはどんどんデジタルで簡素化して、でも、対面でフォローしないとできない仕事をどんどん役場職員はやっていくべきだと思っているんで、そのためには、今の事務処理の仕方とか働き方を全部変えていくんで、このデジタル化はもう働き方そのものを変えていくという大きな転換点になるんで、これも大きな柱だと。

もう一つは、原子力も含めて、今、自然災害も激甚化しているんで、やっぱり防災対策はしっかりやると。防災対策だけだと福祉対策が抜けてしまうというふうな思いもあるので、これはセーフティネットという言葉を使っていますけど、これは福祉だけじゃなくて、公共交通の足の問題もそうだし、買物支援もそうだし、これは生活していく中で絶対欠かせないものを守っていくという、そういう安全・安心みたいなものも当然必要だろうと思っているんで、そういうところを兼ね合わせると、柱としては4つかなという思いがあって、あえてその4つにしています。

これをもっともっと柱を増やしていくと、結局、従来型の総花になってしまうんですね。だから、できるだけ分野横断的に、例えば役場の特定の課だけがやる仕事じゃなくて、複数の課が関わるような施策をパッケージにして、今回、外に出していきたいという思いを持っています。

個別には、空き家対策の問題だったり、いろいろ課題があります。福祉の問題もありますけど、それは空家対策計画とか、保育所の整備についても子ども・子育て支援計画という個別の計画の中できちんと位置づけられるものなんで、単発というか、特定の課内で完結できるものはもう既に計画があるんで、その中でやっていけば十分達成はできるんで、それじゃなくて、分野横断的に全庁一丸となって取り組まないといけないような問題、基盤整備も、建設部がやればいい話じゃなくて、建設部はトンカチをやるんで、その前のどういう絵を描くかというところは、全庁的に議論しないとできない話なんで、そういうものこそ、総合計画に位置づけるべきだろうというふうに思っていて、まず、その方向性をきちんと示すと。こういうふうに村が変わっていくのかなという住民の方々にイメージを持ってもらった上で、それをどれだけ1年ごとに実現できるかというのをチェックしていくと。そういう計画づくりができればいいかなという思いでやっています。

ですから、この後、ビジョンを説明しますが、ビジョンの中もまだ抽象的な表現になっ

ています。これは具体的な施策はいろいろ考えてはいるんです。考えているし、各部長にもアイデアをもらっています。ただ、これ、全く議論してないアイデアベースなんで、そんなことやるんだというのが独り歩きするのが怖くて、なかなか具体的にどういうものやっっていくかというのはお示ししづらいんですけど、ただ、そこが見えないとやっぱり議論もできないというのもおっしゃるとおりなんで、今日はその辺も少し〇〇から説明しますけど、一応、それは全く役場内で議論されてないということを前提で、そういう考え方も、そういうアイデアがあるんだなという程度で聞いておいてもらって、受け止めてもらえればというふうに思います。

多分、この審議の過程は後ほど公開にはなりますけど、そういう意味で言うと、役場って基本的に決まってないことを出したり、議会に説明していないものを出すことに対して非常に抵抗意識があって、多分、職員も結構悩んでいると思うんですけど、私は、皆さん方からいろんな意見をもらうためには、できるだけ考えていることはオープンにして、オープンな議論ができればいいかなというふうに思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。それで、聞いてもらった上で、その中でやり取りしてもらって、さらに、多分、担当で答えられないことは結構あると思いますので、それは最後、私がフリートークの中でまた答えたいと思いますのでよろしくお願いします。

以上です。

【事務局】 ありがとうございました。

村長はここで一旦退席させていただきます。

(山田村長退席)

【事務局】 協議の後で、村長からもありましたように、村長との意見交換がございますので、その際にまた再入室していただきますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、ここからの議事進行につきましては、審議会委員長にお任せしたいと思います。審議会委員長、よろしくお願ひいたします。

【審議会委員長】 よろしくお願ひいたします。

では、早速、本日の議題に移ります。今、村長からもお話がありましたが、お話のあったビジョンの中身ですか、について御説明をいただけるということなので、事務局より説明をお願いします。

【事務局】 改めまして、本日もよろしくお願ひいたします。政策推進課の〇〇と申します。着座にて御説明させていただきます。

そうしましたらば、お手元の資料かもしくはこの前の大きな画面か、どちらかを御覧いただければと思っております。私のほうから、5分程度で簡単に説明をさせていただきたいと思っております。

まず、振り返りのところから入っていきたいと思いますけれども、こちらが、これまでといますか、今回、総合計画審議会を進めていくための、どういったことをどういった順番で進めていくかという前回からの段階がちょっと進んだペーパーになってございます。

今回は、この網かかったところの真ん中の第2回目というところになってございますが、第2回目、8月から9月頃を想定しているというところで、重点政策パッケージの記述であるとか、そういったところが議論の対象になっています。赤字になっているところがございます。

下にあるとおりですけれども、第1回目の積み残しといたしますか、確認事項としてあったのが、特に今回のビジョン案というところは、第1回では例というようなことでお示しをさせていただきただけでございますので、今回は案というところでお示しをしたいと思っております。あとは、今後、文言の整理とかをしていったらいいんじゃないかといいただいているところでございます。

続きまして、進みますと、先ほど村長のほうからありましたけれども、「ミッション・ビジョン・バリュー」という考え方に基づいてといたしますか、を入れて検討を行いました。

「ミッション・ビジョン・バリュー」の考えですとか体系につきましては前回のときにお示しをさせていただきまして、言葉とか、この辺にほかの不変的なものとの「すみ分けを」というようなお話をいただいておりますけれども、おおむね御理解をいただいたものと考えているところでございます。

今回は、こちらの真ん中のところです。繰り返しになりますが、前回、ここに書いてあるのは例というふうなところでお示しをさせていただいたビジョンでございました。ここについて案を提示させていただきまして、御意見をいただきたいというふうに考えているところでございます。

あと、もう一つの資料としましては、こちら、案の体系図になってございますので、これも前回と同じような形になってございます。また、このビジョンのところに御意見をいただきたいというふうなところがございますので、本日もよろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして、こちらのペーパーに移っていただければと思ひます。先ほど村長からありましたけれども、ビジョンを4つ立てさせていただきました。これが一覧化したものになって

ございます。ビジョン案としまして、この上のところ、オレンジのところから紫色のところまでありますが、「こども・わかものの活躍を応援する、若々しく住み心地・暮らし心地の良いまちの実現」、あとは「新たなにぎわいを生み出す都市基盤のデザインとまちなみの整備」、それから「暮らしの便利さを高め、働き方を変えるDXの推進」「多様性を基盤とする防災対策と心理的安全性を高めるセーフティネットの構築」というふうな4つになってございます。

こちらが一覧のものになってございまして、では、これ、具体的にそれぞれの内容についてどうかというところになってございます。

こちらは、先ほど一覧化していましたがそれぞれのビジョンの案につきまして、一枚のペーパーに分解したのになってございます。これが先日、メールで送信させていただいたものとほぼ同等というふうなことになるございまして、青字が入っていますが、あらかじめ御意見をいただける方につきましては、いただいたものもございしますので、それらをちょっと反映させていただいた、そういった形になってございます。

簡単に説明をさせていただきますと、先ほど村長からもあったとおり、一番上のところにビジョン案というところがございますが、テーマとしまして「人口減少対策」というようなところがあります。その次のところがビジョン、この太いところがビジョンの案になってございまして、その下のところですが、ここはビジョン実現のための方法、「O u r A c t i o n」というところです。こちら、その次が住民の方々ですとか、企業の方々の取組の方向性、最後は村が行う事業、施策の方向性というような形が資料になってございます。それぞれ4つありますが、つくり方としては同じというふうなことになるございまして。

村長の繰り返しになっている部分はございますけれども、総花的にしないという考え方の下に行っている部分がございしますので、とにかくこの4つのビジョンに向けて進めていきたいというふうな考え方でございます。

また、こちらの資料のところ、特に分かるかなというふうに思うんですが、今回は総合計画でございしますので、その具体的な事業まではここには記載しておりません。新たな総合計画は5年間を計画期間としておりますので、それを進めるに当たりまして、どういった考え、どういった方向性で進めていくかというところを示していると、そういうところがございます。

また、このビジョンそのものにつきましても、当然のことながら可変というふうなところでお話にもありましたので、情勢変化などによりまして変化することがある、そういうふう

には考えてございます。したがって、この言葉とかも現時点であると考えているところでございます。

この辺り、色が変わっている部分がございますけれども、既にいただいた御意見につきましては、一応、委員長のほうと共有させていただいたと、そういったところになってございます。

まず、私のほうから資料の見方、あと、今回重なる部分もかなりありますが、4つのテーマ、「人口減少対策」「新たな基盤整備」「DXの推進」、あとは「安全・安心の確保」というようなところに関しましてビジョン案の4つ、「こども・わかもの」というのはこちらのところ、あとは、それに基づくビジョンのための方向性、あとは、企業の方々ですとか住民の方々も含めた村全体の方向性、そして、役場が行う施策・事業の方向性というようなところでまとめたペーパーを作成いたしました。こちらについて御意見をいただければと、そういったところでございます。

私からは、まず説明は以上になります。

【審議会委員長】 ありがとうございます。

では、事前に個別にお話も聞いて、その反映も資料には多少されているということではあるんですが、改めてこの場で、こういうところはどうかかなと話したい、御意見等あればぜひいただければと思うんですが、皆様、いかがでしょうか。

もちろんです。お願いします。

【審議会委員】 ○○です。

僕が「Village Action!」のところでちょっと思ったのがあって、ビジョン案1の「人口減少対策」「こども・わかもの」というやつで、高校生ぐらいから「“やりたいこと”や“夢”の実現のための挑戦を後押しする「プラットフォーム」の提供」というのがあったんですけど、高校生とかで実際に夢を持っている人ってどれぐらいいるのかなというのがちょっと自分の中であって、意外と中学生、高校生ぐらいだと、受験で忙しくて夢とか持っていないという人のほうが多いんじゃないかなという意見があったので、ちょっとそこを皆さんと共有させていただきたいなと思っております。

自分がもし高校生のときに欲しかったなと思ったのは、夢とかやりたいことに気づければというか、そういう場所のほうがどっちかという欲しいかなというのがあったんですけど、皆さんはそこについてどう思うかというのはちょっと話し合いたいなと思います。

以上です。

【審議会委員長】 ありがとうございます。

夢とかビジョンを持っている人を応援するというよりは、夢とかビジョンを見つける場という感じですかね、どちらかというところ。そういうほうが方向性の支援としてはより適切なのかな、どうかなみたいなお話かなと思って聞いていたんですが、皆様、いかがでしょう。

【審議会委員】 その点で。大学に進学するかどうかで大きく変わってくるとは思うので、もし高校だ、大学に通わずにもう社会人になるという人だとそういう支援は必要だと思うんですが、他方で、大学に進む人が、今、多い中だと、私も、今、現場で言っているのは、大学の1、2年ぐらいはもうアンテナを広げていろんな可能性を考えたほうがいいと。

もう入学のときから地元の市役所とかに公務員として働きたいとか言ってくる学生が本学は多いんですけど、いや、いろいろ仕事あるからいろんなものを探してみようねというのが本音なので、やっぱりアンテナを広げることに向けた支援というのも大事ですし、具体的に決まっている人にとってはやっぱりもう早めにいろんなものに取り組むことはその人にとって有益かもしれないので、選択肢というのはあればあるほどいいなというのが理想であると。他方で、やっぱりリソースの問題もあるので、どこに焦点を置くかというのをいろいろ需要を考えて焦点を当てないといけないのかなというふうに思います。

【審議会委員長】 そうですね、確かに。いかがでしょうか。ほかに御意見等あれば。

【審議会委員】 今のところと、私も、高校生というところで言うと、ここに書かれているのはすごくキラキラしたものが書かれているなというのでやりたいと。一方で、すごく苦しい状況にあるとか悩んでいるような子たちも多い世代なのかな、中高生というのはというところ思うので、そこも含めた形での書き方になるといいのかなということは思いました。

【審議会委員長】 そうですね、確かに。ほかにはいかがですかね。

【審議会委員】 すみません、私の高校生の頃は、どうですか、あまり交流もなくて、もう地元の子だけで遊ぶみたいな感じだったんですけども、ちょっと東海村に来ると、いろんな研究者とか、出会いがあったりして、海外の人も含めてなんですけど、そういう場は東海村ってたくさんあって、あと、どこでしたっけ、アメリカとも交流されていると思うんですけど、そういういろんな経験ができる場を提供できると、何から見つけたらいいのか分からないんですけど、東海村らしさが出てくるのかなというふうには思いますけども。

【審議会委員長】 そうですね。

【審議会委員】 あと、実際に中学校にいくと、中学校の職場体験をやっていたりとか、あとは、職業人に話を聞くという形で、いろんな方に来てもらって、学校の中で職業の話を

聞いたりというのはキャリア教育の中で学校の中ではやる機会が結構あるんですけど、業種は限られていますけど、そういう機会は学校の中ではある程度は確保されているというか、ただ、それが合致するかどうか、先ほどお話があったように、自分の今後に向けての幅を広げるというのか、自分のなりたい職業のためというよりは、どちらかという、いろんな職業があって、自分はこれからどうしていこうみたいな、そういう部分のところで子供たちにそういう選択もあるよというところで学校の中では結構やったりはしているんですけど、それが村としてというところでどういうふうにやっていくというか、やっていけるかなというのいろいろちょっと思いながら。学校としてはそういうのをやっていますというところで。

【審議会委員】 どうやって会社を探しているんですか。

【審議会委員】 それは結構「つて」、先生の「つて」だったりとか、あとは、そうですね、いろいろお願いしたところから、保護者の方からのところだったりとか、あとは、職場体験なんかは、子供たちが希望する業種から選んで、そこにこちらから連絡かけしてという形だったりとか、そういうのが多いですかね。今年も、東海南中では50何事業所ぐらい、60近くの事業所さんのところで職場体験やらせてもらったりとか、そういうのはやっています。

【審議会委員】 すみません、全然違うあれですけど、今のところでこちらの「Village Action!」のところを見たときに、「高校期～」となっていて、そこがすごく広いということを思いまして、あと、先ほど村長さんのほうから、10代、20代というところというふうな話をされていたんですけども、あまり20代、特に、今、大学に行った場合に仕事に就いていく世代みたいなところの視点がないというところが気になっていて、先ほど村の中にいろんな可能性があるというか、原子力関係も含めてあるというところで、そういった働く場が得られる東海村というような、そういった視点を伝えていけるような取組が入っていてもいいのかなと。どうしても私の子供、高校生世代になってきましたけども、東京へ行きたいみたいなことになってしまう。もちろんその層が言っているのは当然だと思いますし、それでもいいと思うんですけども、東海村の中でもこんな働き方ができる、住み続けられるみたいなところもあっていいのかなということを思いました。

【審議会委員長】 ありがとうございます。そうですね、確かに「高校期～」なので、その辺りをどこまで含むかというところですかね。ありがとうございます。

【審議会委員】 ちょっと別のところを言っているんですか。幼少期のところ、伴走型支援という言葉が使われていますけど、結構、この伴走型支援、最近、いろんなところで聞くん

ですが、割と社会的に孤立してしまっている、例えばひきこもりの人を支援するとか、あるいは、社会復帰を目指す元受刑者、保護司の活動とかで伴走型支援とか、寄り添って一緒に課題解決をしていこう、そういうニュアンスで使われるような、多分、支援方法だと思うんですけども、これをここに使っていくと、具体的にどんなことをやるのかなというのが、ちょっと子育てのところ、私、あまり知らないので、もしどんな伴走型支援を想定されているかというのが現時点で明確になっていけば、ちょっと教えていただければと思います。

【審議会委員長】 では、そうですね。先ほど村長からもありましたが、具体的にどんな事業がひもづくかというところは役場の中でも議論はされてないんだけど、一応、でも、私たちが話し合うためには必要かなということで御紹介いただけるというお話でしたので、ちょっとその視点からよろしいですかね。こんな事業を想定していますというところの補足説明をお願いします。

【審議会委員】 それって、先ほどのプラットフォームの考え方についてもお聞かせいただいてよろしいですか。多分、どっちの視点なのかなというのがそれで見えるのかなと思いますので、ぜひ。

【事務局】 そうしましたら、こちらの参考資料1といったものをお開き頂いてお願いします。前の画面が先頭にあるかと思うんですが、こちら、色分けしております、ビジョンごとに作成しております。ビジョン案の取組例というようなところで、完全に固まっているわけではないんですけども、こういった取組が具体的には想定されるかなというようなところで書かせていただいたものになってございます。

まず、審議会委員からいただきました先ほどの、こちらでいきますと、いわゆる「こども・わかもの」のところで最初にあった幼少期のところ、想定されるものとしましては、1番のところの幼少期、「経済的支援ときめ細やかなら相談・助け合い体制を両輪とした「伴走型」支援」となっていますが、例えばですけども、この1番のところ、「V i l l a g e A c t i o n !」1で、保育料の完全無償化であつたりとか、あとは、在宅育児手当、こういったものが、今、始まってございます。

あとは、保健センターという、東海村のいわゆる母子健康みたいなところを担当している部署もございますけれども、その部署で、一人一人、マイ保健師というような形でサポートしているようなこともございますので、こういった事業が、経済的なものとしまして前半にあるような無償化ですとか在宅育児手当、あと、いわゆる支援としましてマイ保健師みたいな活動をしていくのも具体的なものかなというふうに考えているところでございます。

もう一つ、審議会委員のほうからいただきました若者の部分でございます。この高校期辺りのことを言われているかと思うんですが、ここで考えておりますのが、他自治体でも制定しているようなところはございますが、子供、若者を応援していくような趣旨の条例を制定しているような自治体さんもあります。そういったものを村でも制定をして機運を高めていくようなところが具体的な取組かといったように考えているところでございます。

私のほうからは以上でございます。

【審議会委員長】 ありがとうございます。

ということで、具体的にどういう事業、取組をすべきかみたいなのはちょっとここで議論するのは難しいかなと思うんですが、方向性は、ビジョンとしてこれを優先したくて、それに対してはこんな事業を想定しているというところは一旦御説明いただけたのかなということですね。

ただ、プラットフォームとか伴走型支援みたいなどの使っている言葉に対して直接ひもづく事業ではないのかなって印象は受けるので、そこをどうするかですね。

【事務局】 よろしいですか。このプラットフォームのところなんですけど、今、うち、総合戦略部において2課ありまして、そのうちの地域戦略課というところが、ここも村長の肝煎りなんですけど、「わかもののまちづくり」って進めているんです。「高校生まちづくりスクール」というのをやっているんです。子供たち、今年度も十三、四人ですか、高校生、それから短大生が集まりまして、自分たちのやりたいことをいろんなワークショップなんかをやりながら考えていくという、そういうことをやっています。

去年からそれを始めているんですけど、去年参加した子供たちからこのプラットフォームの話が出ていて、これ、実際にやっている自治体もあるんですけど、学校では、先生、いらっしゃいますけど、先生にいろんな相談できるんですけど、学校の先生に対して行う相談とは違うような相談ができるところ、場所、同じ年代の子供たちが自由に集って、そこで自分の気持ちを分かち合ったり、こういうことをやりたいから一緒にやっていくよという話ができるような、そういう場が欲しいよねと。しかもそういう場には、コーディネートしてくれるような、そういう専門職の人がいるといいよねという話もいただいています、うちもいろんなところに視察に行って、そういうプラットフォームというか、そういう子供たちの居場所みたいなものをつくっていく必要があるかなというふうには考えております。

以上です。

【審議会委員長】 ありがとうございます。

ちなみに伴走型の話で言うと、例えばマイ保健師さんですね。保健師さんなんかはちょっと伴走してくれるイメージですかね。

【事務局】 いいですか。その点について申し上げますと、確かに、今、おっしゃったように、はぐくみという施設があって、子供さんが生まれる前から、妊娠から出産期にかけて特定の保健師が決まって継続的に相談できるという、そういう体制にはなっているんですけど、村長がさっき言っていたように、子育て支援ってもちろん大切なんですけど、子供がいない若者に対する支援というのがすごく必要だと思っていて、さっき精神的ケアの話も出ましたけれども、なかなか結婚、今、必ずしも結婚するわけじゃないですが、結婚したい人は結婚できるように、結婚したくない、そういう選び方もあるので、それはどちらでもいいんですけど、そういう精神的ケアも含めた若者の支援事業、こういう家庭だけがいい家庭ではないですよと、新たな家族像とか新たな結婚像みたいなものを若者と一緒に、経済的ないろんな悩みなんかも含めて考えていけるような相談の枠組みって今はないんですよ、村には。なので、子供さん、妊娠されるその前から、そういう若者たちのいろんな悩みに対応できるような、そういう窓口というか、そういう機能も村として持っていかなきゃならないかなというふうには考えています。

【審議会委員長】 それはこれからちょっと検討していくという。

【事務局】 そうですね。先ほど村長が申し上げたように、まだ全然やると決まっているわけではなくて、そういういろんな案を出している状況です。

【審議会委員長】 ありがとうございます。

ということなんですけど、どうでしょうかね。まだ時間的にはこうやって御意見いただいたり議論はできるかと思うんですが、今のところ、今、4つある柱のうちの1つ目について話をしています。ほかの3つに関しても、もし御意見等あれば。

【審議会委員】 今のところのお話の中で、そうすると、幼少期から高校期以外にも支援していくべきだというお話ですよ、若者を。そうすると、その視点も言葉の中に入ったほうがいいかなと思います。

【審議会委員長】 確かに。ちなみに若者の定義って、いつまで若者ですか。

【事務局】 そうですよ。いろんなところを調べたんですけど、いろんなところで、若者というのはおおむね30歳代までとしているところが多いですけど。

【審議会委員長】 最近、それこそいろんな経営者団体でも若手がないので、経営者団体の中の若手の人たちで結成されているような青年団的なものが50歳までオーケーとか、

それ、若者じゃないんじゃないかなって私は思ったりしている。

【審議会委員】 多分、今のお話、究極ですよ。私たちが入っている団体も、青年部ってもう40代だったのが50代になっているんです。

【審議会委員長】 やっぱりそうですね。

【審議会委員】 いなくなって、そうすると、集う場所自体なくなっていってしまうので、集う場所というのはやっぱり若者には必要だと思うんですね。

【審議会委員長】 ちゃんと若者である必要があるということですかね。

【審議会委員】 今って、近くにいる人じゃなくてもSNSで集えちゃうところはあると思うんですけど、村の中、住んでいるところでも集える場というのは必要なのかな。そして、出会いがあれば子育てみたいなのところがつながっていくのかなという気がします。

【審議会委員】 よろしいですか。人口減少対策ということなので、そこに、要は東海村に皆さん来てもらえますよというところなのかなと思うんですけども、私もかつて若者であったときがあり、いろんなところに住みました。最終的に東海村に住もうかなというところと思ったところがあるんですけども、例えば若者が、多分、私なんかの場合は就職してからここという感じだったと思うんですけども、若者が町を選ぶときって何かしらの根拠みたいなものってあるんですか。私は、行った大学、勤めた会社という形でしか選びようがないからここってなっているだけであって、ただ一方で、高校生のときから東海村って、あ、何かこれ、すげえところだな、じゃあ、ここで働きたいなって思わせることができれば戻ってこさせることはできるのかなと思うんですけども。

いずれにしても、若者が私はここに住みたいという、そのモチベーションになるものって何かしら評価をしていて、その上でこういうアクションにしようかなと思ったような、そういったバックデータというか情報みたいなものがあるんだっただけでお聞かせ願いたいなというのと、皆さんに教えてもらいたいなと思ったんですけど、伝わりますか。

【事務局】 よろしいですかね。それに対する答えってないです。村で、若者がどういう視点で住むところを選ぶのかというところを村で分析しているわけではないので、それは分からないですね。分析しているところもあるのかもしれませんが。

ただ、この間、副村長と一緒に研修に行ってきた、千葉大学の先生でしたか、がお話ししていたのは、今の若い方たちが、東京に、東京一極集中で東京に行っちゃうその理由というのはそれはいろいろあるけれども、自治体が考えなきゃならない改善策の一つとしては、地方では自分が、もう地域の顔役みたいな、自治会組織もばっちりあるし、もう地域の代表み

たいな方たちがいて、その中で自由に発言できない、自分たちの意見を自由に表明することができない、なおかつ、昔ながらの生き方とか結婚に対するいろんな意見を強制されるという、そういう地域には不自由さがあるので、その不自由さから逃れるために東京に行っているというのが一つの理由としてあるでしょうと。そういう特に若い人たちが自由に自分の意見を表明できるような、さっきのプラットフォームもそうですけれども、そういうまちづくりをしない限り、子供というのは地元には戻ってきませんよみたいな話があつて、それも一つの見方なんだろうなとは思ったところです。

【審議会委員】 ありがとうございます。すごい面白いなと思って、であるならば、逆にプラットフォームって我々が準備してお仕着せの感にになってしまうと。

【事務局】 それも駄目ですね。

【審議会委員】 てことですね。

【事務局】 それも駄目です。

【審議会委員】 というと、ちょっと隙のある、ちょっと皆さん、何か意見、頂戴よ、これ、つくっていきませんかという、好きなこと言えそうだなといって戻ってくるような、そんなイメージだったりするんですかね。

【事務局】 我々も、今、地域のいろんな課題で、担い手が減っていて大変な状況になっているので、我々、最初はその担い手、将来の担い手を何とかするために若者って考えていたこともあったんですけど、そういう考えでは決して若者は来てくれません。

【審議会委員】 そうですね。

【事務局】 すぐ見抜かれてしまいます。自由に自分たちがやりたいことが生き生きとできるような環境を我々は用意していくということだと思っています。

【審議会委員】 すみません、ありがとうございます。

【審議会委員】 おっしゃるとおりだと思うんですけども、場をつくるのはすごい難しいなって。ハードじゃなくて、誰がそこにいるかというのがとても重要ところだと。誰と話せるかと。きれいな建物とかおしゃれな建物というより誰がいるかというところなので、とても難しいところだろうなと思いました。

【審議会委員長】 結局、その視点でも東京が優位なんですよ。だから、誰と出会えるかというところで、出会える価値で東京を選んでいるケースも多いので、そこでどうやって東海村として優位性を出すかというところですね。

【審議会委員】 すみません、ちょっと特殊な例かもしれないですけど、今まで出会った

学生にある程度いた傾向としては、地元の大学に通うことになったのは親の締めつけが強い。過干渉とか、結構そういう親が意外と多くて。そういう子が卒業したらどうなるかという、もう稼ぐようになるから自立できるということで、もう東京で働きたいという。逆にそういう締めつけがなくて、地元が好きで地元の大学に通うようになった子は、逆に就活のときもあまり転勤がなく地元でずっといたいと、実家から通いたいという子も結構多くて、割と高校のときまでの親との関係というのが結構影響しているんじゃないかなって、最近はやっと学生を見て思うところがあります。

統計上のエビデンスないんですけども、そういう特殊な例が結構、最近、多いので、本当は東京の法学部で、ロースクールとかでも行けるような大学に行きたかったけど、親がお金を出してくれなくて、地元じゃないと駄目だって。茨城、そういう進路に行ける大学ってないので、結局、ほかの大学にまた入り直すみたいなことを考えている学生も一部いるような感じですよ。

【審議会委員】 その点だと、子供が遠くに行ってほしくないというのも一つありますけど、やっぱりお金の問題もありますから、東京に行くとなると。

【審議会委員】 今、親なので、今、すごく刺さったんですけど。ただ、子供が、いい大人がたくさんいるのに、それを知らないで育っちゃうってこともあると思うんですね。だから、東海村のいいところが分からないまま育ってしまうので、そこを何とかできないかなと思うんですけど。

だから、例えば会社とか、企業とか、役場もそうですけど、率先して子供たちに何か案を出してくれとか、そういう子供を使った事業とか、そういうことを率先してやってもらえませんかみたいなことを企業に働きかけをするとか、そういうことがあると、子供が、村はこういうことで動いているんだというのが分かって、働いている大人を見ることができるといことが感じられると今みたいな話があってくるのかなとは思いますが。東海村のよさを知ってもらうための何か。

【審議会委員】 アプローチの方法としては、もちろん自治体への愛着を高めるということのも大事だと思うんです。村に住んでいる家庭のWell-beingを高めて、地元に継続してもらおうということのも大事かな。この2本の柱がすごく大事になってくるかな。多分、どっちかだけだと駄目なんです。両方、まさにビジョン1というのは、家族の幸福度を上げるという点ではすごく大事だとは思いますが、その両方をやっていくのが私はいいいのかなとは思いますが。

【審議会委員】 自分もひたちなかに住んでいて、東京に出てこっちへ戻ってきたんだけど、出たときに、やっぱりこっちへ戻ってこようとも思っていたんです。東京行きながら、東京、いいなって、東京にいたいなと思うけど、でも、やっぱり最終的には戻ってきて、それ、何でもかという、やっぱり地元が好きで、やっぱり地元に戻りたいなという思いがやっぱりあったので、向こうでも就職は可能性はあったけどもこっちへ戻ってきたって考えると、やっぱり地元のよさとか、そういうのを、出る前から感じていて、戻ってきたいんだというのがあったので。

ただ、今の時代の若者は分からない。若者、どうですか。やっぱり出る前と、やっぱり戻りたいなって思いがやっぱりあって、こういう人ばかりじゃないんですけど、やっぱりでも、そういう幼少期とかから地元へ愛着とか、そういうのが持ててくるのは、やっぱり戻ってくるきっかけとしては大きいかなと思うんですけど。

【審議会委員】 高校時代までに愛着がないと思えないですからね。

【審議会委員】 ですよ。

【審議会委員】 ひたちなかは何がよかったんですか。

【審議会委員】 それを言われると、何がいいというのか、なかなか出てこないんですけど、やっぱり地元が好きという、さっき言った仲間もいるとか、そういう場があるとか、やっぱり親もいたというのも大きいかもしれないですけど、でも、やっぱり生まれ育った地元のためにとか、そういう思いはあったので戻ってきて、戻ってきてからまた独り暮らししてとかでしたけど、でも、戻るきっかけとしては地元が好きというのはあったので、そういう思いを高校までの間で持てたのは大事かなと。

【審議会委員】 私、富山の出身なんですけれども、富山の人って割と戻るんですよ。富山が大好きなんです。これは私の個人的な感覚なのでちょっと置いておいて、そういうのって、ここの自治体って割とUターン率多いよみたいなものってどこかで出たりするんですかね。そうしたら、そこの魅力って何なのかな、何でそういうようになっているのかなというのが分かると思って。

富山の人もう完全に富山が大好きで、富山に誇りを持っているんですよ。富山はすげえ、こんな人がいるとか、立山がすげえとか、何話したって何か好きなもの、魚がうめえってボンボン出てくるんですね。僕も出すんですけど。きっと東海って、今の話でも、さっきの話でも、東海って何がすごいのか。

でも、僕、東海ってすごいところがたくさんあると思っていて、研究所だってたくさんあ

りますしね。海外の人だって来ているんだし、そういったところをしっかりと子供たちに伝えるようにしてあげれば、すげえな、ここ、戻りたいなって思ってくれるのかなと。

だから、2点ですかね。Uターン率の高い自治体があるのであればそういう情報を知りたいですよねというところと、あともう一つ、東海村は絶対いいところがなんだから、アピールが下手くそなんだなという。

【審議会委員】 茨城全体に言える。

【審議会委員】 そうなんです。だから、47位とかになっちゃうんですけど。

【審議会委員】 でも、そこは、東海村が率先して何かやりたいですよ、せっかくだから。

【審議会委員】 中学生に聞くと、やっぱり出たい、出たいって言うんです。言うんですけど、何でって言うと、何もないから、何もないからって。でも、結局、何もないとか、そこなのかなとちょっと思っているんですよ。自分なんかも、物があるからとかじゃなくて、やっぱり魅力じゃないけど、何か分からないけど戻ってきたいというのはやっぱり出てくると思う。ハード面が、例えばお店がいっぱいあるから戻ってきたいのかっていったら、東京とかのほうが絶対いい。

【審議会委員】 そうですね、当たり前ですね、結構。

【審議会委員】 だから、そういう部分はどう幼少期というか、育ってきた、僕らも中学校で働いているときに愛着を、東海村への郷土愛をどう育ませるかというところで、郷土を探究したりとか、最近、やっているんですけど、そういう部分も、村としてもそういう機会とか、そういうのも広げていってあげるのが大事かなというのはちょっと感じました。

【審議会委員】 いいですか。中学生が、今、何もないみたいな話があったんですが、僕は意外と東海村にいろいろやってもらったことが多いなと思ったことが多くて、例えば自然体験学習とかはすごくみんなで行ける楽しい機会みたいな。あのときはそれぐらいしか思っていなかったんですけど、今思えば、そういう体験をさせてくれる機会があったというのはすごくよかったなというのがありますし、平和大使とかも行ける機会があって行かせていただいたんですけど、そういう機会を村が提供してくれるという、体験できるというのがすごく自分にとってよかったなという、何か恩返ししたいなと思う気持ちとかもちょっと生まれたり。

どうやっていくかというのはちょっとまだ分かりませんが、その体験の場というのは結構欲しいかなって僕は思いましたね。

【審議会委員】 何もないというのは何が無いのかなということ、よく分からないんです

けども、今、やっぱりこの後のDXを進めていけば、やっぱり物とサービスはすごく近くなる。今でもそうです。私も別に、今、水戸に住んでいますけど、ほとんど家でインターネットとかを通じて物を、サービスを入手しているんで。

他方で、体験というのはなかなかデジタル社会では得られるものではなくて、私は結構野球観戦も趣味だったんですけど、茨城に引っ越してから野球場に行くことがなかなかなくなっちゃったので、その意味では確かに体験というのはちょっとなかなかデジタル的には求めることは難しいなと思うんですが、そこが結構、今、情報の教育ってすごく発展しているので、物やサービスが足りないという部分の克服というのはデジタル化、それとデジタル教育で何とかいくんじゃないかなと。最近の情報の高校の教科書を読んでいて、本当に面白いので、すごくそういう意味ではかなり情報技術が地域社会にかなり恩恵をもたらすんじゃないかなと私は思います。

【審議会委員長】 ありがとうございます。

そうですね、ビジョンの残り3つの話もありつつも、あと、もう一つありますね。指標の話もあるので、時間的にはどうでしょうね。指標の説明に行ったほうが。

【審議会委員】 でも、2からあるのは後で。

【審議会委員長】 そうですね。どうでしょうね。これ、多分、もっといろいろな御意見あるなと思って聞いていたんですけど、重点政策パッケージの、これの3つ、今、ちょっと話に出たDXのことも含めた話もしつつ、あと、ここに書いてある幸福度指標という指標の話もあるんですね。どうしましょうか。時間的には。

【事務局】 今回、実は指標につきましては、あらかじめ、前回の資料にありましたけれども、幸福度というのを設定をしたいというのがありまして、前回のときにはそれだけの情報量で終わってしまったところなので、改めまして、幸福度の指標というものがどういったものかというところを説明させていただくというところでございますので、少ないほうは10分くらいで。

【審議会委員長】 10分くらい。では、もう少し話せますかね。引き続き、重点政策パッケージの1の話でもいいですし、2、3、4もありますので、この辺りで御意見あればと思うんですが、皆様、いかがでしょうか。

【審議会委員】 2のところの基盤整備のところ、少し細かい点なんですけれども確認したいところがありまして、「Our Action!」のところ、「地域の発展やにぎわい創出のために活躍する人材への支援」となっているんですけども、あと、「V i l l a

ge Action!」のほうではそういった人材的な視点の内容が入っていないんですけれども、今後、入れる可能性があるのかとかという辺りはいかがですか。また、この人材というのはどういうイメージなのかというのもちよっとつかめなかったので教えていただきたいです。

【審議会委員長】 ということなのですが、そうですね、「地域の発展やにぎわい創出のために活躍する人材への支援」というところの、もちろん現時点でこんな事業がというわけではないんでしょうけれども、イメージがあればということですかね。

【事務局】 では、事務局のほうから説明させていただきます。

こちらのペーパーが分かりやすいかなと思いますけれども、主に、こちらのところで、今、審議会委員のほうからいただきました「地域の発展やにぎわい創出のために活躍する人材への支援」というところですが、ここに、今、呼応するような「Village Action!」と思っていますのは3番目のところです。「コミュニティセンターの地域活動拠点化に向けた新たな整備」というところがありますけれども、これをさらにちょっとかみ砕いたものとしまして、「Village Action!」のところで言いますと、一番下の「普段使いへの転換」というようなところを考えております。

今、コミュニティセンターですが、利用はされていますけれども、かつ、地区にそれぞれ一つ、かなり立派なものがあって、体育施設みたいなものも、体育館というんですかね、みたいなものも整備されていると。ただ、使われている方がどうしても特定というか、なかなか、一般の方というわけじゃないんですが、皆様がすべからくいるわけではなくて、自治会の方であったりとか、そういった方が多いかなというところがございます。

したがいまして、普段、一般の方というわけじゃないんですが、皆さんが行けるようなところにしていってはいかがかというような議論なども行ってございますので、こちらの「地域のにぎわい創出のために活躍する人材への支援」というようなところは、そういった地域の活動をしていくときに、当然のことながら、今、自治会だけでほとんど使われている部分がありますけれども、そうじゃなくて、ボランティア活動とかをいっぱいやっている方等はたくさんいらっしゃいますので、そういった方々に支援などができればよろしいのかなというところを考えておるところでございます。

私からは以上です。

【審議会委員】 ボランティアの方であるとか、そういったところの人材が、コミセンなども使いながら活動が広がっていくように支援していきたいというような趣旨ということで

よろしいでしょうか。

【事務局】 あと、ちょっと補足、よろしいですかね。

上に四角が書いてあって、その3つ目にも「人材への支援」が入っているので、「Village Action!」のほうにもその部分について言及したほうがいいだろうという副委員長の御指摘ですので、それはそうだと思います。

四角の3つ目の「人材への支援」、これ、具体的に言っちゃいますと、皆さんも、多分、御存じだと思うんですけども、ラフェット・デラブルって御存じありませんか。東海村でこのところ、年に2回とか3回ぐらいいろいろイベントをやっていて、直近だと神楽沢近隣公園、あそこ、ネーミングライツでグルービー樫の木公園になりましたけど、そこでキッチンカーなんかをいっぱい呼んで大きなイベントをやる、そういう団体があるんですけども、そういう手弁当でいろんな地域を盛り上げようとしてくれる、そういう方がいたり、あるいは、NPO法人って東海村で5つ、6つかな、あるんですけど、例えば特定の地域の活性化のために動いているNPO法人があるんですよ、真砂山FUNクラブというところなんですけれども。そういう個人とか団体とかグループ、そういう人たちを様々な形で支援していろんな地域を盛り上げていきたいという考えがあります。

それから、「Village Action!」のところでは、ここにも人ってやっぱり持ってきたほうがいいんだと思うんですけど、村長なんか言っているのは、今、移動がなかなか大変ですよ。そうすると、カーシェアリングみたいなものを村でも進めていけばなと考えていて、日本カーシェアリング協会というのがあって、その話なんか聞いていたんですけど、あれっってもう地元の人たちがそういう課題を感じて、自分の車を提供できる、あと、仲間を集めてそういう活動ができるんです。そういう人たちをいろいろな形で応援しながら、様々な動きを生み出していきたいという考えがございます。

以上です。

【審議会委員】 よく分かりました。

移動とかはどこに入るのかなと思っていたんですけども、そういったこともこの中に含まれていくというところですね。

ちょっと福祉的な視点で言うと、どうしても農村のところのということもあるんですけど、それに限らずと思うんですけど、移動のところは都市基盤という、基盤というところでは入れていただけるといいのかなというのをも併せて思いました。

【審議会委員】 すみません、ここで話すことじゃないのかななんて思いつつ、カーシェ

アリングの話が出たんで、ちょっと思っていたんですけど、例えば東海村を特区みたいな形にしちゃって、自動運転で走り回るバスとかタクシーをグルグル10台ぐらい回し続けるみたいなことはできないですか。

【事務局】 よろしいですか。できなくはないと思います。我々、境町さんがやっていて、境町、視察に行ってきましたけど、できなくはないと思います。DXの柱とも関係しますけども。

【審議会委員】 そうそう、DX、基盤とDXで両方、柱になって、日本一、50台回していますとかいったらすげえ村だなんて言われる。もう駅まで行くまで暑いからタクシー乗っちゃおうとかなるかもしれないかなと思って。ごめんなさい。ここの視点ではないんですけども。

【審議会委員】 境町、すごい頑張っていますもんね。

【事務局】 頑張っていますよね。

【審議会委員】 そういうのを、例えば若者にそういうのをどういうふうに配車したらいいか考えてくれませんかとか、プログラムつくってくださいとか。

【審議会委員】 それをやったら、お年寄りも若者も、多分、いいんじゃないですか。

【審議会委員】 そうですね。

【審議会委員】 お年寄りの多い会議に行くと、みんな、足がないので、もう毎回、たくさん声が上がって、村にも届いていると思うんですけども、上がっていると思うんですけども、子供たちもやっぱり自転車の範囲でしか行けないところを、いろんなところに行けるといところで。

【審議会委員】 IDとかがあれば、誰がどこにいたとかというの残ってきますもんね。

【審議会委員】 そうですね。できたらすばらしいんじゃないですかね。

【審議会委員】 エレベーターって、3台、4台、10台ある高層ビルとかあってあると、あれをどういうふうに走らせるかというの、研究対象になるじゃないですか。会社がすごい苦労しながらあれで走らせるんですよね。もうまさしく村中を区分なく、2分以内に到着しますみたいな計算って物すごい面白いだろうなと思いました。

【審議会委員】 でも、その交通のところは、多分、あったらすごいメリットです。多分、住む人、増えちゃうんじゃないですか。転入が。

【審議会委員】 東海村内だったら全て無料です。

【事務局】 そうですね。東海村って、地域公共交通会議というのを産業部で持っていて、

茨城交通なんかと話合いなんかをしているんですけど、そういう事業者さんに言わせると、東海村って平たんで、しかも道路が結構整備されているので、そういう実証の場としては適しているんですなんて話は伺っています。

【審議会委員】 面白いですね。

【審議会委員】 移動にストレスのない町とか、そういう言葉が入っていたほうがいいかもしれないです。

【審議会委員】 須和間のほうにバスとかができたじゃないですか。おお、バス、できたなと思ったんですけど、もうちょっと、もう一歩かな、もう少しグルグル回ると面白いかな。

【審議会委員】 自由な移動が担保されたらすごい魅力だと思うので、子供にとっても、高齢者にとっても。

【審議会委員長】 タウンミーティング、村民の皆さんにも参加いただいて、村長と、私がファシリテーターとしているというミーティングの中では、やっぱり交通の話はすごく出ます。実際、皆さん、苦労されているところがあって。よくそこで村長がお話しされるのは、バス停があって、そのバス停を回るようなバスだとやっぱり暮らしの支援という意味ではまだ弱くて、一番は家の前に自分の好きな時間に来てほしいというのが、多分、一番の住民ニーズなので、それにどう応えるかは難しくて、今、デマンドタクシーとかはやっているんだけれども、でも、デマンドタクシーってコスト的に結構重たいから、そこも難しいし、あまりやり過ぎると民業圧迫にもなるみたいな話はよく村長、お答えされていて、その辺は、でも、ぜひここでも話題として、それこそ総合計画に反映されるようなものになってもいいのかなという気はしますけど。

【審議会委員】 それが見えてくるだけでちょっと違いますね。

【審議会委員】 住みたい町になる。完璧になる。

【審議会委員】 そういうふうになりますよね。

【審議会委員】 それがあったらすごい魅力だと思うんですね。あと、15年か20年は。

【審議会委員】 そうですね。

【審議会委員】 自動運転が出ちゃったら必要なくなるかもしれないんで、それまでは。

【審議会委員】 ただ、バスとかになってくると、今、2024年問題でドライバー不足が全国的にあるんで、人材の取り合いになっちゃうんじゃないかなと。

【審議会委員長】 現実には路線減っていますからね、今。

【審議会委員】 自動運転になってくるといいですけどね。

【審議会委員】 大学で貸切りバスとかを手配するのも今年はすごい大変で、断られることも多い。結構、学校とかで修学旅行とか手配するときも大変だという。修学旅行で宿泊先は決まっているけど、そこまで行く足がないのが結構あるらしいんで。

【審議会委員】 人を雇うとなると、ちょっと負担大きいですし、そこは自動で、自家用車じゃないんで自動でいけるほうができると思うんですよね。

【審議会委員】 逆に、その人材不足だからということで、そういう若者も集めるという支援もありかな。

【審議会委員】 つくば市ですと、そういうチャレンジの大会とか開いていると思うんですね。自動化とか、何かチャレンジ。東海村もそんなことができる、と、すごく、その後、村内の会社も頑張りますし、大会とか、ロボコン的な、そんなことも増えると思いますね。実証実験をやるとか。すごい面白いですね。うちもトライしたいですもんね、そうしたら。

【事務局】 ありがとうございます。

【審議会委員】 やっぱどうしてもつくばのほうが魅力的なんですよ、いろんな開発するには。東海村も研究者が多いんですけど、なかなかないの。

【審議会委員】 東海村の研究者は働いちゃっていますもんね、しっかりね。

【審議会委員】 そうすると、そういう将来的には移動手段になるんだよみたいな話になって、農業支援でもいいんですけども。

【審議会委員】 そうすると、企業が村を使ってくださいというスタンスですよ。

【審議会委員】 すごいいいと思います。先ほどもおっしゃっていたように、子供たちが製品開発に参加するというのもそれは面白いですし、いい気がします。そういうのができたり、企業と連携したり。

【審議会委員長】 今の話って、いわゆるM a a S, Mobility as a Service, M a a Sの分野かなと思って聞いているんですね。やっぱりそこでどうしても交通とか、政策的に言う、とそういう位置づけになりやすいなって思っていて、だから、とても関係するし、この4つの柱のどれも影響があるものではあると思うんですけど、別の柱のような気もちょっとするので、そこがどう整理されるかなというのは気になりますね。もしかしたら、この4つを優先する中でそぎ落としたほうに入っている話かなという気もして聞いていました。そこってどうなんですかね。

【事務局】 村長が最初に言ったように、個別計画が、今、60本以上あって、個別計画でしっかり年次計画で推進するということになっているのはここには入れない、総花的にな

っちゃうからという話なんですけど、交通についてはないですね。東海村のそういう交通の計画というのは、今のところは個別計画ではないので、地域公共交通、バスとかなので、確かにいろいろ全てのこの分野に関係する部分ではありますよね。

【審議会委員長】 なるほど。入れても大丈夫そう？

【事務局】 大丈夫だと思います。ちょっと考えさせていただきますけど、そういう視点は、そこまでの視点は我々になかったの。

【審議会委員長】 分かりました。ぜひ御検討いただくということで。

【審議会委員】 逆張りの感覚であれですけども、安全・安心の確保という視点で考えても、例えば村内の自家用車所有台数を50%削減します。だから、走る数が減るから事故が減りますみたいなのも、逆に言うと、結果、自動運転がグルグル回れば、じゃあ、別に車1台でいいやとか、車、もう要らない世代もいるだろうし、免許返納する人もいるだろうし、そうすると50%減らしますって。50%減らして大丈夫なのって、逆説的に目立つような気がしていてバズるかなと思ったり、というのものもあるかなとふと思いました。ごめんなさい。ただの感想ですけども。

【審議会委員】 さっきの東京の魅力のところでも、やっぱりあるのは移動が。

【審議会委員】 ですね。それ、そうですね。

【審議会委員】 地下鉄とか、交通がやっぱり発達しているのと、何なら歩いて巡れますからね。そこはやっぱり東京の、都会の魅力というところがあって、ただ、それがもし村内に自動化された乗り物が動いていけば、大分そこが魅力になるだろうなと思います。

【審議会委員】 あと、この話が広がっちゃいますけども、例えば駐車場だって別に、グルグル回りますよといって、別にうちの駐車場を使ってくれてもいいですよとかいう人も結構多いと思うんですよ。逆に、そうしてくれれば自分が乗ろうと思ったときに目の前にいてくれるしとかいうのもあるだろうし、村全部がそこら辺、協力しますよといったら、結構本当にお祭り騒ぎになって、みんなに注目されるのかななんて思います。

【審議会委員長】 ありがとうございます。

一旦、あと、どうですかね。

【審議会委員】 3とか4のところでもいいですか。

【審議会委員長】 3、4の話と指標の話があって、村長との話もあるので、どこで区切るのがいいかなと思いながらずっと聞いて。まだ大丈夫ですか。事務局的に進めたいというのがあれば、遠慮なく言ってもらえたらと思うんですが。

【事務局】 3番と4番のほうのところで御意見を伺えればいいんじゃないかと考えているところでございます。

【審議会委員長】 もうちょっと意見出しても大丈夫ということなので、3番、4番。ということですか。

【事務局】 5分ぐらい。

【審議会委員長】 5分ぐらいですね。分かりました。

では、3番のDXの推進の話とセーフティネットの話でも何か御意見等あれば伺いたしますがいかがでしょうか。

【審議会委員】 すみません、そうしたら、幾つか、3番のほうに関してなんですけれども、DXのところで、役場のことだけでなく、ちょっと福祉の点だと、福祉の関係機関との情報共有というのがすごく難しさがあるというようなことで、デジタル、それぞれしているのにうまくつなげないというような話があるというところで、細かな取組事例になってしまうかとは思いますが、そのこのところの観点は入れていただきたいということと、これ、村民としての勝手な要望なんですけど、学校の提出書類、相変わらず手書きが多い。致し方ないとは思ったところなんですけど、そこも含めて変わります、新しい東海村ですとなるといいかなと思いました。ぜひ。すみません。

【審議会委員】 母子手帳がデジタル化するといいですよと思って、毎回、子供が小学校上がります、中学校上がりますというときに、すごくたくさん書くんですけど、あれってデジタル化になったらそんなことなくていい。村だけが独自にやるということではできないんですかね。

【審議会委員】 でも、母子手帳とかは電子化は話は聞いたことが。

【事務局】 やり始めたか、間もなくやるか、今、ちょっと調べていますので。

【審議会委員】 ただ、恐らく以前のものというよりもこれからのものかなと、になってしまおうと。

4番のほうも聞きたいところがあるんですけども、これはビジョンのほうの言葉になってしまいうんですけど、「心理的安全性」という言葉があって、何なんだろうなと思って調べたら、心理学のほうの用語で、人々が気兼ねなく発言できる雰囲気というようなものだというような定義があって、一般的に、普通の意味の心理的安全性ではない、学術的な用語もあったりする中で、その意味で使っているのかどうなのかというのをお聞きしたいというところが1点です。

それから、「Village Action!」の4番のところに関して、「一人ひとりが安心できるくらしの確保と誰もが支えられる新たな場の創出」となっているんですけど、この安心・安全というところのことで、村長さんから先ほど暮らしで欠かせないものを守っていくというような話があったと思うんですけども、そうしたときに支え合える新たな場だけでは狭いのではないのかなというところ、もう少し暮らしを守っていくところの内容が入ってくるといいのかなと、新たな場だけではないほうがいいのではないかなということは思いました。

以上です。

【審議会委員長】 ほかに御意見ありますか、3番、4番について。

【審議会委員】 「想定+ α 」を考慮した」ってあるんですが、プラスアルファを考慮すると想定の中に入るんじゃないかなと最初に見て思ったんですけど、想定外を想定するという、想定外があることは想定済みだよというニュアンスなのかなという感じ、要は臨機応変に対応できるという、そういうニュアンスかなと思ったんですが、そのとおりでよろしいでしょうか。

【事務局】 そういうことだと思いますが、ちょっとまた考えさせてください、この表現は。

【審議会委員】 私はそれに対しては、例えば国の基準よりもはるかに厳しい基準で東海村はチェックしますということを言っているのかなと思ったんで、だから、やっぱり何とでも取れてしまいますよね。

【審議会委員】 多分、それを一般の人が見て分かりやすく短めの言葉にしたらこうなったって感じなんですかね。

【審議会委員】 最近、自治体向けの雑誌とかを見ていると、やっぱり複合災害のリスクが高まっていて、やっぱり想定する単一の災害とは違うレベルでのかなり複雑な対応が必要だということが言われているんで、例えば今回の能登半島の地震だと、物資とか災害救援の人たちを届けるような道がないという、そういうリスクとかも出てくるので、多分、そういうことも加味した、かなり強靱な防災対策をしようというのは伺えるかなと思います。そういうところがすごい大事になってくるのが、今後の防災政策なんだろうと思います。

【審議会委員】 この4つの柱の中に入るかどうか、ちょっと分からないんですけど、この4つの中に産業を生み出すという言葉がなかったんで、どこかに、若者を取り込むためにも必要だし、これから発展するためにも産業が生み出せる村であってほしいなという夢があ

るので。

例えば、今、一生懸命やっているんでしょうけど、干し芋のかすを燃料にできるとか、そういうこととか、いろんなことを考えている人ってたくさんいると思うので、そういう中で産業を生み出す、組合じゃないですけども、コンソーシアムみたいなものが村の中でできるというのというのが一つ、4つ以外になっちゃうかもしれないんですけど、ひとつお願いしたいなというところと、今の安心・安全の4番目のテーマなんですけど、やっぱり熱波も災害になってきていると思うんですね。なので、できれば熱波災害に対応するための、森林を増やすとか、水田、減少を減らすとか、そういう視点が書いてあるといいのかなと思いました。

【審議会委員長】 ありがとうございます。

では、一旦、ちょっと意見出しというところではここまでにして、指標の説明ですかね、お願いできればと思います。

【事務局】 ここから、参考資料の2番のところになります。こちらの資料につきまして、今、リモートで入っていただいております策定支援事業者さんのほうから、今回、導入します幸福度のところにつきまして、説明をしていただきたいと思います。

【策定支援事業者】 〇〇です。よろしくお願いいたします。

お手元の参考資料2の資料を御覧いただければと思います。今回、御説明をさせていただきますのは、新たな計画の中で設定をしていきます地域幸福度指標（We l l－B e i n g）指標の概要についてでございます。今後の審議会の中で、地域幸福度指標を当てはめた形で計画をお示しをしていくことになろうかと思いますけれども、そこに向けて、この指標がどのようなものかということを皆様に御説明をさせていただきます。

こちらの指標でございますが、デジタル庁におきまして、デジタル田園都市国家構想実現に向けた地域幸福度指標の活用促進に関する検討会の開催等を通じて検討を行いまして、地方公共団体における活用を推進している指標でございます。

この指標は、客観指標と主観指標という2種類の指標を活用をすることで、市民の皆様の暮らしやすさと幸福度、こちらをWe l l－B e i n gと申しますけれども、これを指標の形で数値化、可視化したものでございます。

この指標は2つ基本の概念がございまして、一つが世界的に認知をされておりますWe l l－B e i n gという考え方、そして、もう一つが健康の社会的な決定要因という考え方でございます。We l l－B e i n gについては様々な定義がございますけれども、一例とい

たしまして、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることと説明をされます。また、健康の社会的決定要因という概念につきましては、定義の一例といたしまして、個人または集団の健康状態に違いをもたらす経済的、社会的な状況のことを指す概念でございます。

この地域幸福度指標につきましては、この一番下に少し黄色、紫、青で塗ってある図がございます。ここで御説明しておりますのは、地域における幸福度、生活満足度、4つの設問というもののほかに、「3つの因子」という書き方をしております。ここで「生活環境」「地域の人間関係」「自分らしい生き方」という3つが書いてありまして、下の図では「生活環境」について黄色塗り、「地域の人間関係」について紫色塗り、「自分らしい生き方」について青塗りで図がお示しをされております。

御覧いただきますと、それぞれの因子はさらに細かく、計24のカテゴリーに細分化して設計をされております。これらの細かな24のカテゴリーごとに先ほど申し上げました主観指標というものを、アンケート調査の設問によって測定をいたします。客観指標につきましてはKPIというものが設定されておりまして、その指標のデータというものは、常に公開統計ですとかオープンデータの形で収集されているデータから自動的に算出をされるような仕組みになっております。

例えば、今申し上げました客観指標の内容としてどのようなデータを使っているのかという点を参考に申し上げますと、例えば「生活環境」という因子の中では、子育てという細分化されたカテゴリーがございます。この中に含まれているものの一例といたしましては、例えば施設当たりの幼稚園児数、あるいは、人口当たりの待機児童数、また、合計特殊出生率、こういった具体的なデータ、報告データを用いまして、ここで幸福度の数値が算出をされるという内容になっております。

以上が、この地域幸福度指標の概要でございます。今後、また、次回以降の審議会の中では、このような幸福度指標を具体的に当てはめた形で計画の形をお示しをしていくことになろうかと思っておりますので、本日は概要について御説明をさせていただきました。

私からの説明は以上です。

【審議会委員長】 ありがとうございます。ということで、指標設定としてこういう指標を用いたいなということですね。ありがとうございます。

これについても御意見等あればと思うんですが、いかがでしょうか。よろしいですかね。

では、一旦、議題2つに対しての説明と意見というところは終了しましたので、村長とのフリートークに移りたいと思います。

【審議会委員】　　ちなみにこれって、指標の中でアンケート設問とかがあるよという話なんですけど、今後、東海村では、もう定期的にそういったもののアンケートが繰り返されるような、そんなイメージなんですかね。

【事務局】　　今まさにいただきましたアンケート、まず現状値を把握するために、ちょうど今、８月３０日を締切りとしまして、今、１,５００人に送りまして現状値を計ってございます。来年度から、今後は、定点観測ではないんですが、同じような形で住民さんの満足度とかを調査していったって、どこが必要になるのかといったあたりのところは、我々、見ていきたいかなと、そういうように考えているところです。

【審議会委員】　　１,５００通ということは、全世帯じゃなくて、抽出したスタイル、ランダムで。

【事務局】　　無作為抽出です。

【審議会委員】　　ということは、それが、定期的にやるときにも、ランダム、ランダム、ランダムだから、当たり外れがあるような感じはあるような。これ、全世帯にやっては駄目なんですか。

【事務局】　　そうですね。なかなか。

【審議会委員】　　規模感がちょっと大変なんですかね。

【事務局】　　今は抽出をさせていただきまして、１,５００、そこから大体３８０ぐらいはたしか返ってきているところなので。

【審議会委員】　　すみません、ありがとうございます。

(山田村長入室)

【審議会委員長】　　ありがとうございます。

では、ここから、私、このまま進行で、フリートークということなんです。

【事務局】　　こちらで。

【審議会委員長】　　お願いします。

【事務局】　　審議会委員長、ありがとうございました。

続きまして、ここからの時間、前回できなかったわけなんですけど、村長との意見交換、フリートーク形式でということで入らせていただきたいと思います。約３０分程度ということで、委員の皆様と村長とのざっくばらんな意見交換の時間ということでさせていただきたいと思いますので、フリートークですので、何かこれまでの経緯等も含めて村長に質問等ある方から、御自由に御発言のほうをお願いしたいと思います。

急に振られて難しいと思うんですけれども、どなたか口火を切っていただければと思います。

【審議会委員】 すみません、ありがとうございます。

今回、総合計画のつくり方、大きく変えるということで、屋上屋にならないというか、屋上屋にならず、また新しい方向性を示していくというようなものになるのかなということで、結構わくわく感というか、そういったところを覚えているところです。

その中で、4本のこのビジョンというのがとても大事になってくると思うんですけれども、1番目のところ、人口減少対策を置きたいという思いがあってということなんですが、「こども・わかもの」「若々しく」ということがすごく前面に出ると、ほかの世代の人たちが、私たちは一番最初に置かれるものじゃないんだねというような受け止め方をされないかと。全ての村民が参画していくみたいな打ち出しが弱くならないかなというところを最初に見たときに思ったんですけれども、その点、いかがでしょうか。

【山田村長】 そうなんです。おっしゃるとおりで、特に高齢者から、私たちはどうでもいいのかって思われるのは嫌だと思って、ただ、高齢者の方々も、若い人がいないと支え手がないということになるし、やっぱり地域に若い人がいるというのは活気も生むし、やっぱり子供たちの声が聞こえるというのは地域にとっては欠かせないものなんで、その辺をうまく説明できるような、多分、ワードのほうがいいのかな。本来、焦点はそこなんですけど、そこに強く当てすぎると、やっぱり当たってない人たちが不満を持つところなので、全ての世代でそういう人たちを支えていくみたいな、そんなイメージを出せば少しは違うかなという思いはしています。

【審議会委員】 打ち出し方じゃないんですか。そんなふうに思ってほしくないなとは思ってますけれども、個人的には。うまく伝えれば。

【山田村長】 そうですね。なかなか伝え方が難しくて、私もいろんなところに出向くと、子育て世代のことを言い過ぎると、私たちのことはどうしてくれるんだって直接言われますので。

【審議会委員】 そうすると、やっぱりシルバー民主主義という感じになってしまうので、うまく、みんな、若かったの。かつて、みんな、生まれてきて若かったところで、自分事として捉えてもらえるような伝え方がきっと。

【山田村長】 そうですね。本当に自分事として捉えてもらおう。それぞれの世代が、やっぱりつながっているし、それぞれの世代の、自分たちの思いはあるんでしょうけど、でも、

やっぱり将来を考えたときに、やっぱり活躍してもらいたい、自分たちも活躍してもらいたいんですけど、でも、やっぱり大切にしたいというか、やっぱり東海村をずっと持続可能なというところで考えたときには、やっぱり世代を交代してというか、若い世代に託すみたいなところをうまく伝えられればいいかなと思っています。

【審議会委員】 例えばビジョンのところで、住み心地・暮らし心地がよく、こども・わかものの活躍を応援するみたいな、小手先かもしれないんですけど、少し変更するとかもありつつ、もいいのかなということも思いました。

【山田村長】 やっぱり全ての世代の、全ての住民にとって東海村が暮らしやすいというか、多分、それは行政サービスだけじゃなくて、近隣も含めて生活する環境がやっぱり魅力あるというか、にぎやかなというか、そういうわくわくするような、そういうやっぱり村を目指してみたいな、ことが必要かなと思いますね。

【審議会委員】 ありがとうございます。

【山田村長】 ありがとうございます。

【審議会委員】 すみません。人口減少なんですけども、例えば今、茨城大学さんって結構全国から学生さんが来ていて、就職、うちにもアルバイトで何人も来ていただいて、就職、うちにする？ と言うと、大体、東京の大きい会社へ行っちゃうんです。それ、どうやって確保しようかなというのが難しくて、不景気だと、何年か前だと大丈夫だったんですけど、ここ二、三年、駄目です。ちょうど東海村さんで今年から奨学金返還という、ああいうのは魅力的で、そうすると引っかかってきてというのものもあるんですけども。

やっぱりうちみたいに小さい会社でも、ちょっとプラスアルファを村と一緒に出せるとすごくありがたくて、そういうことを、移住と定住を含めてなるとありがたいなというふうに思っています。

ひたちなか市も同じようなことをされましたよね。そうすると打ち合いになっちゃうので変だなというふうに思うんですけど、本当に学生さんはみんな、行っちゃうんですよね。せっかく遠くから来ていて、東京に行っちゃうという。

【山田村長】 これ、行政サービスだけで、金銭的な援助だけはもうそれぞれ消耗戦なっちゃうんですね。私は、今回、事業者にも関わってほしいというのは、当然、雇用するためには給与だったり福利厚生だったり考えると思うんですよ。やっぱりでも、東京と勝負しようと思っても大変だと思うんですけど、ただ、そういう前向きに会社のいろんな制度を変えていくところ、それで、多少お金がかかることを村がその会社を支援するみたいな、そん

なこともやりたいと思っているんです。

だから、村は、うちの会社は村から支援を受けて、若い人たちにこんなことをちゃんと提供できる会社ですよというところで、働き方も含めて、そういうところでアピールできるように、もしそれが100万かかるんだったら事業者50万出してくれと。村で50万出しますよと。そんな感じで事業者を応援することで、結果的に若い人たちにほかとの、会社との差別化みたいなものを。

それは、事業者もその気になっているし、村もその気になって、両者一緒になって、あなたをぜひうちで働いてもらいたいというメッセージになればいいかと思っているんで、多分、これは本当、事業者がその気になってくれないとまずいで、そういうところを掘り起こしていくというか、そういう事業者がどんどん増えてくれば村としてはありがたいと思うんで、そういうことまでやっていかないと、多分、駄目かなと。

直接的な若者に対する支援もそうですけど、やっぱり雇用とかって長く関わってくるんで、やっぱり行政がやれることは最初の入り口しかないんで、長く勤めてもらうためには、事業者も含めて一緒に支援するという姿勢を持ってもらいたいなというように思います。

【審議会委員】 よろしいですかね。私も人口減少の話なんですけども、私の嫁も私も富山出身で、富山出身の人は、皆、富山に戻るみたいな話をしていて、ここにも「Uターンを促進するための」って書いているんですけど、きっとそれって経済的誘導策とかじゃなくて、ただ単にそこに愛着があるというだけだよなということなんですね。そうしたときに、やっぱり東海村って、やっぱり実はすごいじゃないですか、いろんなものがあって。そこをやっぱり上手に子供たちに伝えながら、外にも発信しながら、それこそ村長がガンガン、ガンガン言っていくとかというところもあると思うし、やっぱりその愛着を育ててあげるってところもやっぱり必要だよなって考えたときに、やっぱりその愛着っていつまでといたら高校ぐらいまでって考えると、そこの、こども・わかもの支援というよりも、若者に愛着を持たせるまちづくりみたいな感じにしても、お年寄りたちが気にならない言葉にできるかなと思ったので、そこら辺はやっぱり言葉の、言葉遊びかもしれないんですけど、そういったところの視点も持ってもらえるといいのかなという話を先ほどさせてもらった。

【山田村長】 そうですよ。おっしゃるとおりで、本当にそうです。村に、多分、愛着を持ってもらいたいと思って、小・中に関しては本当にいろんな局面局面でそういうことを働きかけているし、子供たちもいろんな体験を通してそれなりに感じてくれているんですけど、高校、ほとんど東海のお子さんはもう8割、9割ぐらいは全部村外の高校に行きますか

ら、その瞬間に東海村以外の自治体とか、水戸も含めて、あ、こういうところがあるんだと。それがどんどん東京とか華やかなところへどんどん、やっぱり大きくなってくると、分かってくると、やっぱり楽しさとか刺激があるところに興味が行くのは仕方がないんです。でも、ちょっと小中学生のとき楽しかったよねというのがどこかに残っていれば、もう1回戻ってきたいとか、別にこっちに、Uターンじゃなくてもいいんですけど、東京に居ながらも、でも、やっぱり東海のことを気になるねみたいな、そういうお子さんが増えてくれることが大事だというふうに思っているんで。

逆に言うと、東海出身でどんどん、どんどんグローバルに出ていった子は、それはそれで応援をしていきたいと。その子がそういうところで活躍するときに、実は私、東海出身で小中学校でも非常に楽しかったって、ああいう子供時代があったから今があるって、その一言を言ってもらっただけでもう村はもう万々歳なんで、そういう意味で言うと、本当に子供たちに愛着を持ってもらうような、そういう育て方をするし、そういう応援を続けるという意味では、今回も、支援というのは本当、行政の上から目線なんですけど、子供たちのやりたいことを応援するという、下から支えるというところで何とか打ち出していければなという感じはしています。

【審議会委員長】 まさにこの前の意見交換の中で、本当にこの辺りの話、いろいろ出ていたんですが、支援という視点もあれば、例えば気づいてもらうような場の提供というか、そういう刺激があるみたいなのところも大事なみたいな意見もかなり委員の皆さんからは出ていました。

【山田村長】 そうですよ。機会の提供というか、経験とか体験とか、いろんな知識も含めて場の提供、場づくりが必要だというふうに思っています。結構やっているとは思っているんですけど、先ほどもちょっと言いましたけど、やっぱり高校生になった瞬間のアプローチができてないんですよ。

これは、教育委員会も高校は県立、ほとんど県立で、県の管轄になっちゃうんで、市町村ができるのはやっぱり中学までになっちゃうと。そうすると、せっかく高校のときは住んでいるのは東海なんで、通学しているのが村外なんで、大学とかになっちゃうと住んでいるのも外になっちゃうんですけど、高校のときは、せっかく住んでいて、電車を通っていて、土日部活とかがあるのかもしれないけど、でも、平日はここに住んでいるはずなんで、そこの子たちにいろいろ、経験とか何かの体験、その人たちが自由なことができる場づくりみたいな、「高校生まちづくりスクール」ってやっていますけど、ああいうものも含めて高校生

のたまり場をつくりたいって思いがあるんですよ。

学校に行く、電車で通う、今は駅にお迎えに来ちゃうんですけど、ちょっとアイヴィルでもいいけど、ちょっとしたたまり場があって、ちょっと中学時代の同級生と、高校は違うけどそこでちょっと話をして、そんなことができればいいかなとかね。

あとは、二十歳で成人の集いをやっていますけど、25でもう1回、あえてそういう場をこちらのほうで仕掛けて、それを5年ごとに同窓会をやってもらうとか、やっぱり継続して関わっていったらいいなとか、そういう場をつくっておけば、皆さん、自然に何かいろいろ生まれてくるのかなという期待は持っているんですけどね。

【審議会委員】 今、居場所の問題が出てきましたけど、村の高校生とか中学生ってどこでテスト勉強をみんなで作るのかなってすごい気になっていて、私の頃は、もう怒られるかもしれないけど、ファーストフード店とかファミレスに、長時間、ジュース飲みながらいて勉強するとかあったんですけど、最近は結構厳しく、やめてくださいみたいな、民間のそういう事業者もありますし、逆に、公共空間でそういう場をつくっていくというのは、結構実例とか、空き家の、県立図書館をカフェで改装したというのがありますし、私、今、水戸市に住んでいますけど、水戸市の市民会館、あそこに行ってみたら、結構、若い人がいて、何で若い人がいるのかなと思ったら、勉強スペースが用意されていて、そういう場を提供するのも結構、今、行政の役割として必要なかなと思いつつ、やっぱりお金かかるから大変だろうなって。

難しいとは思いますが、結構そういう、さっき私はデジタル化でいろいろ物とサービスは手に入る時代だという話をしたんですけど、人のつながりってなかなか難しいので、そういう場を創出するというのはすごい大事なかなと思います。

【山田村長】 今は、多分、自然にアイヴィルというイオンの反対側の村の施設ですけど、その1階が結構、皆さん、勉強する場所になって、本当に窓際に一人一人が座れるカウンターもあれば、反対側はちょっとしたテーブルがあって、三、四人が座れるところもあって、そのほかに村の図書館とか、幾つかそういうフリースペースはあるんで、今でもそれは使ってもらっているんですけど、もっと多分、そういう場が欲しいというんであれば拡充していきたいなって思いは持っていますね。特に高校生は本当に、多分、駅を使って皆さん、通学しているんで、そうすると、駅の周辺にそういう場があるというのは、多分、喜ばれるかなと。

あとは、勉強以外にいろいろ体を動かした人もいて、そういう人たちの、うちは幸い

にしてスケボーを駅前ではやっていませんけど、多分、そういうこともやりたいとかいう子がいるんで、いろんなそれぞれのやりたいことをどういう形で実現できるかというのは考えていきたいなと思っています。

人口減少があれですか、その柱が結構多かったですか。ほかの事案とかはそうでもないですか。

【審議会委員長】　でも、あと、人口減少にも関連する話の中で、タウンミーティングでも出ますけど、交通の話も結構出ていて、やっぱりこれは若者の支援にもなるし、多分、高齢者の支援にもなるというような、交通の利便性とか、今の移動しにくいところをどうしていくかみたいなのもここに含まれてもいいのか、含まれているのかどうかみたいな話も出ていました。

【山田村長】　そうですね。直接的に公共交通のものは今は入ってはいないんですけど、最後の安全・安心のところの、多分、そういうところにも位置づけてもいいのかなというふうには思っています。

基盤整備のところでもいいのかもしれないですけど、ちょっと今、基盤整備は、具体的にある地区を、地区計画をつくって開発をやっていくみたいなことを今回はちょっと打ち出したいなと思って、それ以外の全村的なそういう交通の問題というのは、ちょっとそこに入れるか、ほかのセーフティネットのほうに入れるか、触れる必要があるんだなというふうには思っています。

【審議会委員】　そこもちょっと盛り上がったんですよ。やっぱり移動の自由を担保できたら、お年寄りももうみんな、それだけでほかは何でももう喜んでくれると思うんです。

【山田村長】　そうですね。

【審議会委員】　境町みたいな。

【山田村長】　自動運転とかね。

【審議会委員】　自動運転的なのを村内でできたら。

【山田村長】　そうですね。

【審議会委員】　やっぱりその部分がやはりそうで、特に、例えばそのときにエレベーターの話もさせてもらったんですけども、高層ビルのエレベーターって5台、10台あるけれども、あれってどれだけ待たせないようにするというあれの計算って企業のノウハウの固まりなんですね。それこそもう東海村ではもう自動運転のやつが50台ありますと。1分待たせません、2分待たせんというような運用を心がけるんだと。そのプログラム考えて

くれとかいったら、もうメーカー、こぞってやりたがるような気がしますし、若者にしても面白いと思いますよね。

そういった、しかもわくわくすると思うんですよ。子供たちも使っていていいですよ。中丸小学校の子が舟石川学区の公園で遊んでいてもいいよ、それを使うんだったらいいよとかいうのであれば面白いのかなというところがあって、そういったところが、ちょっとわくわくする東海という、東海はすげえというところも、企業がちょっと試験するような場所になるといいのかなとかという、特区にしちゃってもいいかなと思いました。

【山田村長】 公共交通はMa a Sでいろいろやっていくというのは、今、いろいろ先進的にやっていて、実証事業やっているところが、境もそうだし、太田もそうなんですけど、この間、太田も乗ったけど、公共交通については、いずれにしても、今、デマンドしか主力のものがないんで、ライドシェアって話もあるんですけど、やっぱりタクシー業界とのちょっといろんな調整が必要で、東海村にすぐにはちょっとなかなか入れられないというのが現状なんですけど、タクシーをもうちょっと使い倒すみたいなのところはあるんで、場合によっては、高齢者向けにはもうタクシーをもうちょっと高齢者が使いやすいようにするというの
はありだと思うんですよ。

とりあえずは、既存の公共交通で、その利用をもうちょっとしやすくなるような支援にして、将来的には、多分、そういう、タクシーもいずれ運転手がいなくなっちゃうんでやっぱり自動運転が主体になるし、場合によっては本当に直線距離で駅から東海病院だったら、新交通システムじゃないけど、多分、そういうこともあり得ると思うし。

私は、今の合庁跡地という、駅の近くのところに空いたところがあるんですけど、あそこと駅と役場って、結果、三角形の、同じような距離なんで、そこをグルグル周遊できるようなシステムとか、多分、そういうものも入れてもいいかなと思っているんで、路線バスで遠いところへ行くと、あと、もう駅の周辺はそういう新交通システムか何かで気軽に行けるよ
うなというのが理想かなとは思っているんで。

あとは、だから、そこにちょっと歩いてもちょっと移動できるみたいな、ちょっと歩くことも自然とできるような、その辺は組合せで、やっぱり健康のためにも歩いてはほしいんです。全部ドア・ツー・ドアはまずいかなとは思っていて。

公共交通は、そうです、新しい技術を考えると結構夢があって、未来予想図みたいなのを描くとわくわくするんですけど、なかなか技術的には一、二年では無理なんで、今回は5年をめどにしているんで、どこまでできるかということなんでしょうけど、少なくとも実証実

験に参加するみたいなどころまではできそうだと思うんで、その先に、10年後ぐらいにそういうものが実現できていればいいかなという感じはします。

【審議会委員】 おっしゃるとおりだと思って、この5年の中では実現できないと思うんですけど、ただ、5年の中でそこを目指していくんだよということでポンと立ち上げるのがすげえな、東海村というところだったわけですね。

【山田村長】 そういうのがないと、ちょっと夢のある計画にはならないですよ。

【審議会委員】 村長が最初、夢のあると言っていたんで、そういうところはやってもいいかなと思いました。

【審議会委員】 いいですか。質問というか疑問なんですけど、そういう無人バスとかって誰が責任取るあれなんですか、境町とか太田とかというのは。責任の所在ってどこにあるんだろうなって。

【審議会委員長】 それは、多分、本当に世界的に今、議論されていて、責任って誰が取るかみたいな話がありますけど、例えば境のだと人が乗っています？

【山田村長】 そうそう、人が最終的には緊急対応はできるようになっています。

【審議会委員】 結局は運転しているんです。

【審議会委員長】 そうなんですか。

【審議会委員】 バスの運転手以上に難しい運転技術が必要らしいんですけどね。

【審議会委員長】 完全な無人というよりは、何かあったときに対応する人がいるんですよ、今のところ。

【山田村長】 まだ今のところは。

【審議会委員長】 そうなんです。だから。

【審議会委員】 実証にすると、メーカーさんの研究者とかがついてくるだろうから、メーカーにそれをやらせて、うち使っていいからやってって言うtoちゃんと人が来るでしょうというのが、僕は思ったんですけど。

【審議会委員】 もし事故が起こった場合は、恐らく被害者側は自治体と自動運転システムを開発している車製造会社とかを、多分、共同で訴えるんですね。ただ、どっちに責任があるかというのは被害者側は分からないんで、今度は自治体とメーカー側の問題になって、結構複雑になっちゃうんで、そこが、誰に法的責任があるかというのは、自動運転の問題はかなり難しいというふうになっていますね。今の車でも同じことは起こるんですけど。

利用する市民からすると、基本的に、多分、運営している市を訴えるんでしょうけど、市

町村を訴えるわけですが、市町村側は、自分たちはちゃんと管理していたからメーカーが悪いんだよねみたいな感じになるので、結構。

【審議会委員】 その辺の整備も先んじてやるというのも手ですよ。先に法律を制定しておいて、村独自でもいいから、まず、それを先に考えてみるということも必要かもしれないですね。

【審議会委員】 ちなみに50台もありますっていったら、小学校、中学校でも授業すればいいですよ。いいか、東海村は自動運転が来るから。こういう挙動になるからなっていう交通安全教室も面白いと思います。

【審議会委員】 その前に道路を整備するということも。

【審議会委員】 そうですよ。

【審議会委員】 そこをまず考えて。

【山田村長】 そうなんです。本当は都市計画とかまちづくりで、道路も含めてあらかじめそういうものを導入する前提でつくっておけば一番問題ないんですけど、結局、既存の道路を使っているんで、そうすると、障害物がなければ幾らでもできちゃって、きちんと実証としてはクリアなんでしょうけど、実際にはそういう、人が飛び出すもそうだけど、勝手に駐車しているところがあるから、そうするとやっぱりどんどん、どんどん、リアルの場になってくると結構課題は多い。

【審議会委員長】 実際、トロッコ問題とか言われる解決しにくい問題もあって、飛び出してきた子供と乗っているおじいちゃん、おばあちゃんとどっちかがけがする確率があったときにAIはどっちを優先するかみたいなのを、今、すごい議論しているんですよ。どっちがいいと思います？ みたいなのを、答えを出さなきゃいけないんです、今。そういう、自動運転しちゃうとその答えが欲しくなっちゃうんで難しいんですね。それが導入が進んでない理由。

【審議会委員】 飛び出しちゃうんでしょうね。

【審議会委員長】 多分、AIが出したものなので。

【審議会委員】 そうするんだという。

【審議会委員長】 何かしら合理的な理由がね。

【審議会委員】 リスクとベネフィットとどっちを取るかというところもあると思うけど、日本はそこでリスクを取り過ぎになっていて、個人的な感想としては、アメリカ、すごえなあって、よくそこまでやっちゃうよなって、自動運転。あまり考えてないんだろうな、すごえ

なって。でも、そうじゃないと進まないのかな。

【審議会委員長】 それでも、多分、実証実験している。

【審議会委員】 多分、みんな、受容しているというか、すげえなと思った。

【審議会委員】 ドライにいくんでしょうね。

【山田村長】 結構、最後は自己責任だからね、アメリカってね。

【審議会委員】 でも、4本目が防災のお話ですけど、トロッコ問題、トリアージの問題で実際に出てきちゃう。なかなか実際に遭遇してしまうことがあるってことです。しかも今の高校3年生からはトロッコ問題は必修でやられている。

【審議会委員長】 必修なんですね。

【審議会委員】 考えさせて、難しいよねで終わっちゃうわけですね。

【山田村長】 でも、それを考えて。

【審議会委員】 やらないといけないわけです。

【審議会委員】 公共という科目の最初で、多分、出てくる話です。

【審議会委員】 ひょっとしたら脱線になっちゃいますけど、トロッコ問題に対する動画って結構あったりするじゃないですか。トロッコ問題を技術で解決したみたいなものもありますよね。ちょうど分かれるところで、前の車輪がこっちに進んだところで切り替えるとクルンってひっくり返るので、脱線して両方助かる。それを実演している映像があって、なるほど、技術はすごいなという、倫理の問題を技術で解決したという動画があって、多分、若い子が発想している。だから、学校でそういうのを学んだから、何とかなんないかって考えて出したんだろうなと思って、やっぱり入れること、子供たちに提供することって面白いな、こんな答えがあるんだなと思ったんで、解決しちゃうかもしれないですね、今の若い子たちは。ポンと出すと。

【審議会委員長】 完全な二択の前提を崩してくる。

【審議会委員】 すごいですよね。

【審議会委員】 だから、トロッコ問題を問うときは、そういう前提はないですよ。だから、自分が助けに行けばいいじゃんみたいなことを言う子がいるので、結構、前提条件でちゃんとと言わないといけない。みんな、考えることなんですよ。そう考える子がいることは結構いいことだとは思うんですね。

【審議会委員長】 そういうことも含めて、東海村が実証実験していますよはすごい夢があるかなという話ですからね。

【事務局】 かなり盛り上がったところではございますが、時間の都合もございますので、非常に有意義な意見交換ができたと思いますので、また何か機会がありましたらそういう場を設けていきたいと思うところでございます。

では、そうですね、意見交換会のほう、終了とさせていただきますして、最後に事務局から連絡事項ということで、事務局のほうより御報告申し上げたいと思います。

【事務局】 本日の議論、ありがとうございました。事務連絡を幾つかさせていただきたいと思います。

まず、冒頭ありました本日の会議の中で意見など述べられなかったことがありましたらばご意見・ご質問票がありますので、御記入いただきまして御送付いただければというところでございます。

次回の会議ですが、これは委員長とまたすり合わせさせていただきましてご連絡をさせて頂きたいと思ってございますのでよろしくお願いしたいと思います。

あと、先に言っておきますが、御存じの方もいらっしゃるかもしれないんですが、9月7日に、今、総合計画審議会では御議論いただいているところの中間報告というところで、産業・情報プラザ、アイヴィルで9月7日の土曜日10時から開催をしたいと考えておりまして、山田村長と審議会委員長で登壇いただきまして一般の方を招いて開催したいと思いますので是非御参加いただければと思っているところでございます。

私のほうからは以上でございます。

【事務局】 ありがとうございます。

それでは、今日、予定されていた内容、全て終わりましたので、以上をもちまして、第2回東海村総合計画審議会を閉会とさせていただきます。皆様、どうもお疲れさまでした。

— 了 —